

現存天守の残る
日本一高い山城

備中松山城

備中松山城天守

最も高い所に天守の現存する山城(標高430m)。二層二階の典型的な山城だが、三層に見える様にデザインされている。籠城戦を想定し、囲炉裏や装束の間が設けられており、二階には御社壇(神棚)があるのが特徴。天守は1683年、水谷勝宗によって大修復されたもの。
(国指定重要文化財)

二の丸

二の丸はもつとも広くお弁当を食べたりするのに最適。城下を見下ろしたり、記念撮影をしたりもできる。

御膳棚 (ごぜんだな)

かつては食事をつくる場所だったが、現在はトイレになっている。

厩曲 (うまぐるわ)

荷馬を繋いでいた厩曲。現在で言えば駐車場にあたる場所。

土塀

土塀の一部が現存のもので、残り半分は復元されたもの。壁の段差で、現存部分と復元部分を区切っている。
(国指定重要文化財)

大石内蔵助腰掛石

水谷家は三代で世継ぎが無く断絶。この際、城の受取に来たのが播州赤穂の大石内蔵助だった。備中松山藩家老鶴見内蔵助との話し合いにより、無血開城することに成功。二人内蔵助会議として語り継がれる。

大石内蔵助腰掛石

御殿坂

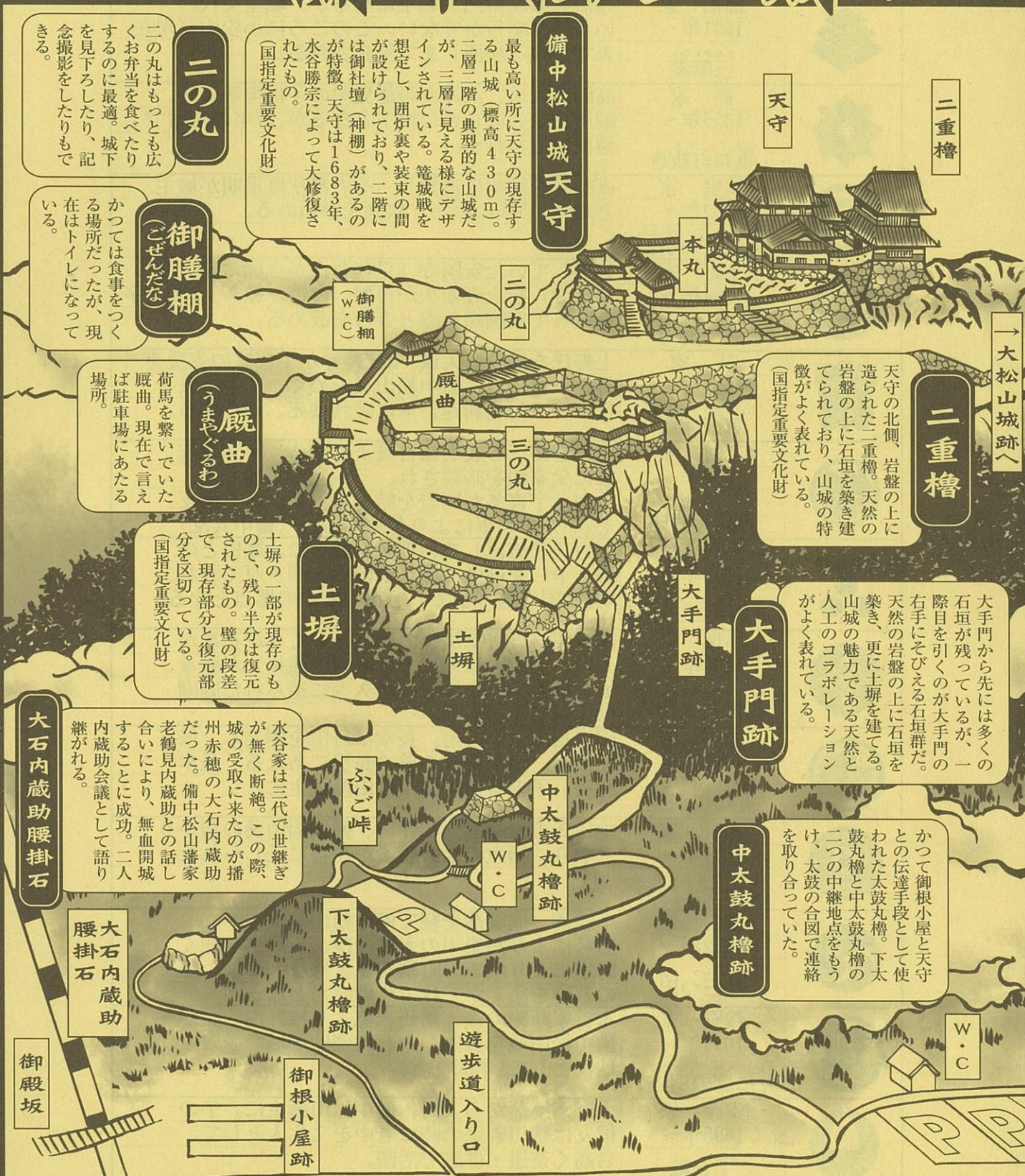
御根小屋跡

城主が日常住んでいた御殿に当る建物で、政庁も兼ねている。天守は象徴的な存在で、政治の中心は御根小屋で行われた。現在の高梁高等学校。

ふいご峠

臥牛山8合目の駐車場。備中松山城の御社壇に納められた三振の宝剣をこの場所で作らせ、その為大きな「ふいご」が設置されていたことから、この名前がついた。ここから徒歩で700m約20分で天守に到着。

城見橋公園 駐車場



二重櫓

天守

本丸

二の丸

御膳棚
(W・C)

厩曲

三の丸

二重櫓

大松山城跡へ

天守の北側、岩盤の上に造られた二重櫓。天然の岩盤の上に石垣を築き建てられており、山城の特徴がよく表れている。
(国指定重要文化財)

大手門から先には多くの石垣が残っているが、一際目を引くのが大手門の右手にそびえる石垣群だ。天然の岩盤の上に石垣を築き、更に土塀を建てる。山城の魅力である天然と人工のコラボレーションがよく表れている。

大手門跡

かつて御根小屋と天守との伝達手段として使われた太鼓丸櫓。下太鼓丸櫓と中太鼓丸櫓の二つの中継地点をもうけ、太鼓の合図で連絡を取り合っていた。

中太鼓丸櫓跡

中太鼓丸櫓跡
(W・C)

ふいご峠

下太鼓丸櫓跡

遊歩道入り口

御根小屋跡

(W・C)